



大和証券グループの概要 (2020年6月1日現在)

- 会社名 株式会社 大和証券グループ本社 (Daiwa Securities Group Inc.)
- 本社所在地 〒100-6751 東京都千代田区丸の内一丁目9番1号 グラントウキョウ ノースタワー
- 電話 03-5555-1111 (代表)
- 代表者 執行役社長 中田 誠司

大和証券グループウェブサイト



大和証券グループと
SDGs

大和証券グループが取り組む

SDGs (持続可能な開発目標)とは？

SDGsとは、2015年9月の国連サミットにて全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられた2030年までの国際目標です。「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals)」の頭文字をとって「SDGs」と表記します。

SDGsは、すべての国の社会課題を対象とした17のゴール(右図)と、その課題ごとに設定された達成基準である169のターゲットから構成されます。このゴールとターゲットによって、包括的で持続可能な社会の構築を目指すものです。

SDGsでは、貧困や飢餓から環境問題、働き方まで幅広い課題が網羅されています。そのため、途上国だけの問題ではなく、日本も含む先進国のあり方を問い、その取り組みの過程で「誰一人取り残さない」ことを強調しているのが特徴です。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGs 達成のために、 総合証券グループとして役割を果たします

SDGs 達成期限の2030年まで、残り10年となりました。サステナブルな社会の実現のため、さらに積極的にアクションを起こしていかなければいけません。また、度重なる自然災害や新型コロナウイルス感染症流行等により、世界が加速度的に変化している中では、何よりも迅速な決断が求められています。

この先の10年は、あらゆるステークホルダーとより一層強固な協力関係を築き、課題解決に効果的な取組みを世界中ですみやかに実行していくべきであると考えます。

私たちは総合証券グループとして、そのような取組みが資金不足により滞ることがないように、持続可能な資金循環を促進する仕組みづくりに尽力したいと思います。

今後も社会課題解決に積極的に取り組み、次の100年も必要とされる企業であり続ける。そんな私たちの想いについてご理解を深めていただければ幸いです。



株式会社大和証券グループ本社
執行役社長 CEO

中田 誠司 *Seiji Nakata*



事業活動を通じて 幅広い社会課題解決に貢献

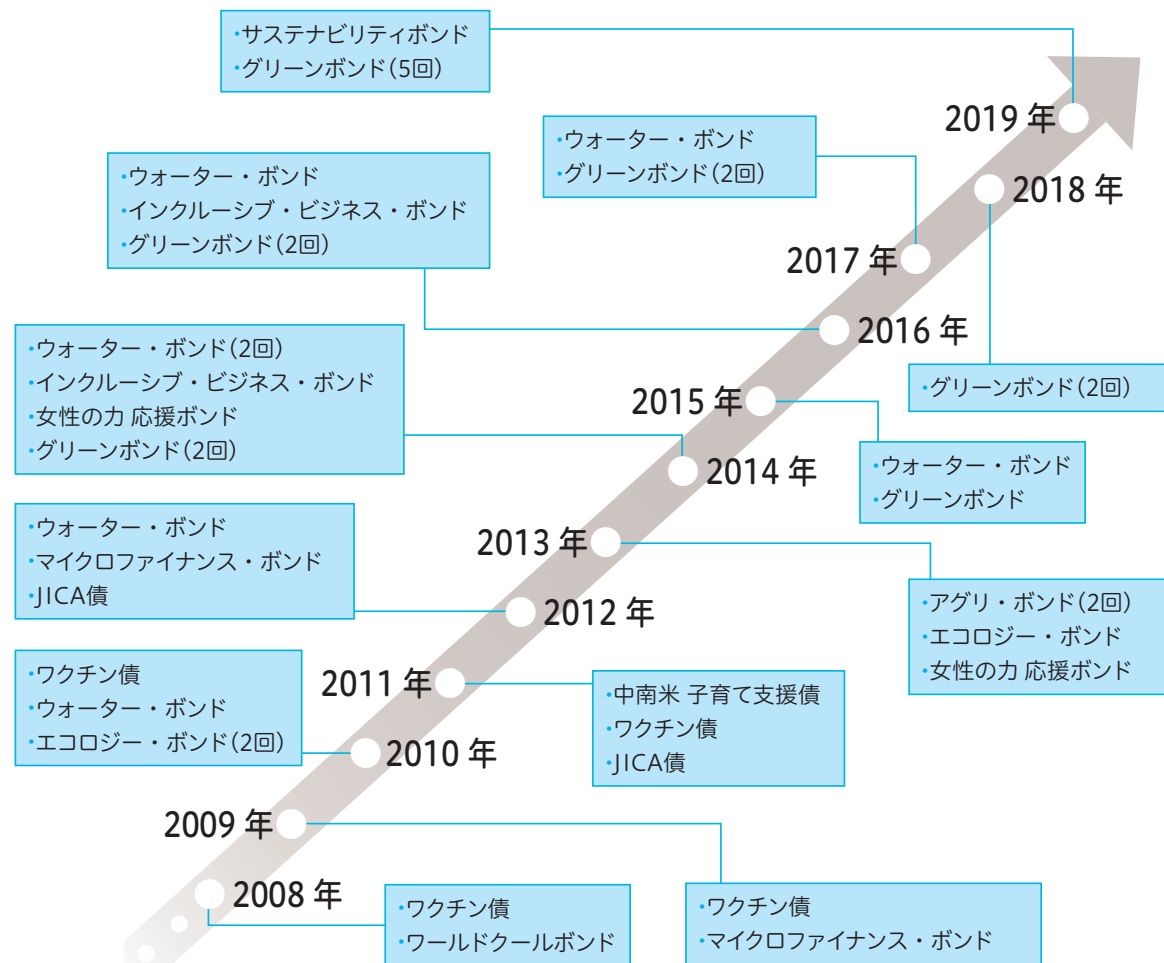
大和証券グループでは金融機能を通じて社会課題と投資のニーズを結び付け、課題解決に貢献する役割を担っています。



共通価値 (Shared Value) 創造のサイクル



大和証券グループのSDGs債の歩み



社会課題への投資を促進 SDGs債の取り扱い拡大



従来のグリーンボンドの引受・販売に加え、ソーシャルボンドやサステナビリティボンドなどのSDGs債の取り扱いをさらに拡大しました。

グリーンボンド

環境問題の解決に資するグリーンプロジェクトに要する資金を調達するために発行する債券*

ソーシャルボンド

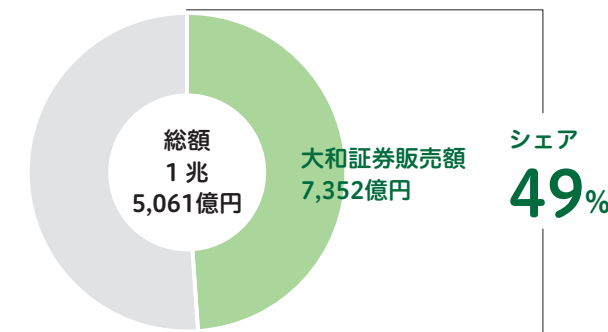
福祉や教育などの社会課題の解決に資するソーシャルプロジェクトに要する資金を調達するために発行する債券*

サステナビリティボンド

グリーン及びソーシャル双方のプロジェクトに要する資金を調達するために発行する債券*

※日本証券業協会「SDGsに貢献する金融商品の概要(歴史等)」より抜粋

2020年3月末時点における個人向けインパクト・インベストメント債券(SDGs債)の国内市場での累積販売シェアは49%と、高水準を維持しています。



(2020年3月末時点における個人向けSDGs債の実績)

社会課題解決応援ファンド (愛称：笑顔のかけはし)

大和アセットマネジメントでは、2018年にSDGsをはじめとする社会課題の解決の取組みを応援するファンドを設定しました。当ファンドは、すでに顕在化した社会課題の解決に加え、社会の関心が集まる前の「潜在的な社会課題」にも注目しているのが特徴です。

社会が潜在的に抱える課題は企業に持続的な成長をもたらすきっかけとなり得ます。企業への取材や社内外の情報リソースを活用して、投資テーマを選定しています。

潜在的な社会課題をビジネスチャンスとして、持続的に成長すると考えられる企業に投資することで、経済的リターンと社会的リターンをともに獲得していきます。

ポートフォリオ構築のイメージ

わが国の金融商品取引所
上場株式（上場予定を含む）

・「社会が抱える課題」の中から
投資テーマを選定

・投資テーマに沿った企業の中から以下
のような企業を投資候補銘柄とする

- 1 人々や社会が抱える潜在的な課題をいち早く捉え、ビジネスとして取り組む企業
- 2 社会的に注目されている課題に取り組み、収益の獲得をめざす企業
- 3 製品やサービスの提供を通じて、課題解決への取組みをサポートする企業
- 4 課題が解決されることによって恩恵を受ける企業

投資候補銘柄

・徹底したボトムアップ・アプローチを重視した個別企業の分析および投資環境の分析を行ない、投資魅力の高い銘柄を選定
・個別銘柄の流動性、株価水準等を考慮

ポートフォリオ

お預入れが社会に貢献 大和ネクスト銀行「応援定期預金」

大和ネクスト銀行の「応援定期預金」では、お預入れいただいた残高に一定割合を乗じた金額を、大和ネクスト銀行が4テーマに沿って選定した10以上の団体へ寄付しています。

2020年3月末現在、残高は約730億円となっております。その結果、2020年4月（2019年度下期分）には、過去最高の949万円の寄付をすることができました。なお、累計の寄付金額は、約1,900万円です。

お客様からは、「社会課題を知る良いきっかけになった」「同様の取組みがもっと広がると良いと思う」などのお声をいただいております。今後も、預金を通じた社会課題解決への取組みを進めてまいります。



定期預金を通じて応援できる活動例

環境保護、障がい者スポーツ支援、子どもの医療支援、貧困等の状態にある子どもの自立支援

大和エネルギー・インフラ

再生可能エネルギーへの投資



大和エネルギー・インフラは、再生可能エネルギーへの投資を通じて、新たなエネルギーシステムの構築等による社会課題の解決を目指しています。

国内外において太陽光発電所、未利用材を主燃料とするバイオマス発電所、地熱発電所等へ投資し、クリーンな電源の提供に貢献しています。



観音寺市(左)と日光市(右)の太陽光発電所

大和フード&アグリ

新技術を導入し、農業の産業化を推進



大和フード&アグリは、大規模かつ効率化を追求した農業の産業化を推進していくことで、日本の農業・食料分野を取り巻く社会課題の解決に貢献していくことを目指しています。

2019年春より、熊本県において現地パートナー企業との協働のもとアグリテックを活用したベビーリーフ生産ビジネスに参入しました。そして、2020年春には、山形県および大分県において大規模施設栽培によるトマト生産ビジネスを開始しました。



トマト栽培の様子

グッドタイムリビング

質の高い介護サービスの提供



日本の75歳以上の後期高齢者人口は2020年代前半に2,000万人を突破することが見込まれており、良質な介護施設・サービスの提供は喫緊の課題です。そのなかでグッドタイムリビングでは、ゲスト(ご入居者)お一人おひとりに合わせたオーダーメイドの介護を提供しています。

当社はお客様やそのご家族に信頼できる高齢者向け住宅をご紹介します、安心して充実したセカンドライフを、より広範囲にわたってサポートしていきます。



グッドタイムリビングセンター南 エントランスホール

次世代金融サービスの創出(Fintertech)



ブロックチェーンをはじめとする最先端のテクノロジーが普及してきています。

その中で、Fintertechではデジタルネイティブ世代に向けた次世代金融サービスの創出に取り組んでいます。



事業領域例

デジタルアセット担保ローン、クラウドファンディング、クラウド投げ銭システム等

事業承継に解決策 (大和 ACA 事業承継ファンド)



日本の中小企業の約半数が後継者不在と言われており、事業承継は大きな社会課題です。大和 ACA 事業承継ファンドは、中小企業が持つ優れた技術・サービスを次世代に承継する支援をしています。

ヘルスケア領域を積極支援 (大和 ACA ヘルスケア)



医療・介護事業に特化した投融资ノウハウを持つ大和 ACA ヘルスケアを通じ、国内外で病院・介護事業資金の提供や医療法人の承継・経営支援を行なうことで、同分野における社会課題解決を目指しています。

9 産業と技術革新の基盤をつくろう



健全な金融資本市場を支える

資金を必要とする企業を応援し、資金の流れを生み出すサポートをしています。活発で安定した金融市場づくりに貢献して社会基盤を支え続けます。



1 貧困をなくそう



10 人や国の不平等をなくそう

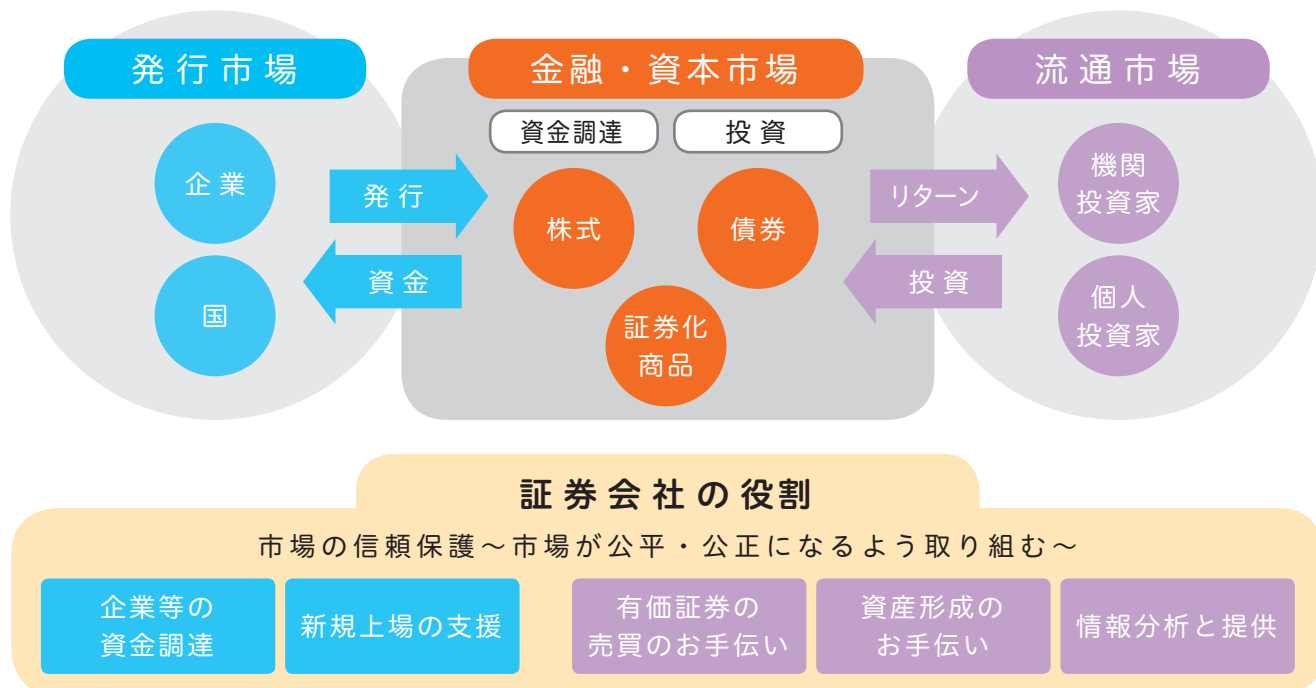


こどもスマイルプロジェクト

資本主義によって生み出された格差問題のうち特に子どもの貧困問題にアプローチするため、「大和証券グループ 夢に向かって！こどもスマイルプロジェクト」に取り組んでいます。



大和証券グループの考える、社会のなかでの証券会社の役割



当プロジェクトの一環として、子どもの環境改善や貧困の連鎖を防止することを目的に、公益財団法人パブリックリソース財団とともに「輝く未来へ こども応援基金」を創設しました。

本基金は子どもの未来を応援する NPO 等を支援しており、助成先は公募の上、決定しています。



また、2020年6月に個人向け社債（愛称：大和証券グループ未来応援bond）を発行し、発行総額の0.15%である1億1,250万円の寄付を決定しました。

そのうち1,000万円を公益財団法人パブリックリソース財団によって設立された「子ども支援団体等緊急支援基金」への寄付金に、また残額を「大和証券グループ未来応援bond こども支援団体サステナブル基金」への寄付金に充当する予定です。



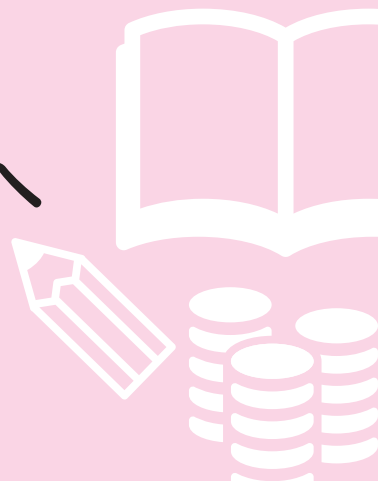
助成団体と大和証券グループ本社社長・中田

4 質の高い教育を
みんなに



お金についての 教養を幅広い世代へ

幅広い世代のお金に関する知識や教養を高め、市場のお金の流れを活発にすることが、未来の金融市場の活性化につながると考え、多様な学びの機会を提供しています。



5 ジェンダー平等を
実現しよう



「働きがい」の 最大化に向けて

ワーク・ライフ・バランスの推進および健康経営等を通じて、すべての社員が働きがいを感じられる職場を目指しています。



8 働きがいも
経済成長も



「おしごととはくぶつかん」への協力

小学生向けキャリア教育教材「おしごととはくぶつかん」に協力しています。子どもたちが主体的に進路を決めることでキャリアに関するミスマッチを防ぐことを目的としています。書籍版「おしごと年鑑」は、授業で使えるように学習指導要領に対応しています。



「おしごととはくぶつかんキッズ」WEBサイト



ダイワインターネットTV

どなたでも無料で視聴できる「ダイワインターネットTV」を自社スタジオで制作し、経済・社会および投資に関する情報を、多様かつタイムリーに配信しています。



ダイワインターネットTV



女性活躍推進

女性社員を積極的に登用しており、大和証券グループ本社女性の取締役比率は現在 21.4% (14 名中 3 名) となりました。さらに、環境整備などの取り組みが企業の持続的成長を促進していると評価され、「なでしこ銘柄[※]」に 6 年連続で選出されています。



健康経営の推進

CHO (Chief Health Officer : 最高健康責任者) を選任し、健康経営推進会議の開催、健康白書の作成を通して、グループ全体で健康経営を進めています。具体策として、健康意識向上プロジェクトなどを実施しており、「健康経営銘柄[※]」にも 6 年連続で選出されています。



※ 経済産業省と東京証券取引所が共同で選定

社内公募で「SDGs推進 オリジナルロゴマーク」を決定

ビジネスにおいてSDGs推進を強化し、積極的に对外発信していくために、当社グループオリジナルのSDGs推進ロゴマークを全役職員対象に募集しました。

その結果、70点を超えるデザインが、海外店を含むグループ全体から寄せられました。

社員一人ひとりに日々の業務の中で活用したいと感じてもらえるように、最終選考に残った作品から「役職員による投票」を行ない、最終決定しました。



ロゴデザインを考案した社員は、「様々な課題を持つ社会の中で大和証券グループが、より良い社会の構築に貢献していくことをイメージしました」という想いを込めたといいます。

この想いを、グループ全体で共有し、SDGs達成に向けた取組みを一層進めていきます。

証券会社の力に

期待すること

社会が抱える課題について、解決のために少しでも力になることを願って——。大和証券グループでは、地域社会や市民社会とともに考え、取り組んでいます。NPO法人の方から、ご意見をお寄せいただきました。



立教大学 教授
認定 NPO 法人日本 NPO センター
代表理事
萩原なつ子 氏

子どもたちの人生を明るく変える ギフト・ワークをこれからも

SDGsの達成期限、2030年まで残り10年となりました。これまで以上に多様な主体が連携・協働して社会課題と向き合い、その解決に向けた取組みが求められています。とりわけ「誰一人取り残さない」社会の実現には、子どもの貧しさゆえの困難や子どもが希望する未来の不平等につながる格差の解消が急務です。「大和証券グループ 輝く未来へ こども応援基金」は、子どもの多様なニーズに応じた支援を行うNPOを応援する貴重な取組みです。本業を通して得られた利益を、子どもたちの未来の可能性を広げる活動に還元する社会貢献活動は、経営学者のチャールズ・ハンディの言葉を借りれば、まさに企業によるギフト・ワークといえるでしょう。持続可能な社会の担い手である子どもたちの人生を明るく変えていくためのギフト・ワークをこれからも展開されていくことを期待しています。